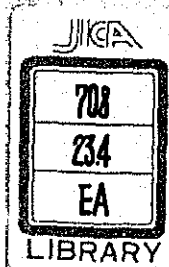


移住地資料

# パラグアイ移住地教育の現況

3. 7. 1 2. 1 5

財団法人 日本海外協会連合会



国際協力事業団	
発行日 84.9.13	708
巻録No. 15010	23.4
	EA

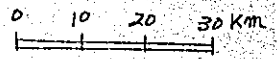
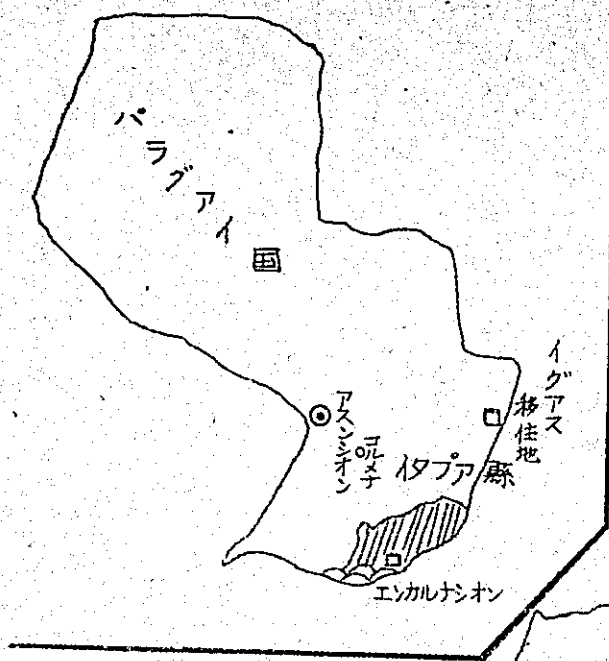
# 目 次

Ⅰ. パラグアイ国教育概況	1
Ⅱ. 日本人入植地における小学校問題	5
Ⅲ. ドイツ人移住地における教育状況	15
Ⅳ. パラグアイ移住地日本人小学校父兄会よりの陳情	18
Ⅴ. 教育現況統計	25

JICA LIBRARY



1028791[0]



アルゼンチン国

# I. パラグアイ国教育概況

教育は国家予算の面で国防に次いで重きが置かれている。制度としては、小学、中学、高校、大学とがあり、他に特殊学校として、士官学校、師範学校、高・工、農業学校、保健学校等がある。

小学校は義務制であるが、高校教育に対する国家の援助が保証されている。

## 1. 学校及び生徒数（1959年度）

### (1) 小学校

アスシオン市（含丘郊）	194校	54750人
地 方	1928	241789
教 員 数		10411
就 学 率		64%

### (2) 中・高等学校

中・高等学校数	78校	10994人
商業学校	32	4849人
師範学校	37	7108人
教 師 数		2808人

### (3) 大 学

国立大学とカトリック大学各1校がある。

ス. パ国における教育関係予算 (単位百万クアラニー)

	1961年	%	1962年	%
大統領府	14.7	0.5	16.5	0.5
内務省	246.9	9.1	308.1	10.1
外務省	102.0	3.8	104.1	3.4
大蔵省	84.2	3.1	103.3	3.4
○文部省	326.6	12.0	371.9	12.1
農牧省	60.1	2.2	63.3	2.1
土木・交通省	296.4	10.9	269.7	8.8
国防省	589.0	21.7	679.9	22.2
厚生省	172.5	6.3	193.0	6.3
債務償還部	261.8	9.6	307.8	10.0
その他	564.7	20.8	647.3	21.1
計	2,718.9	100	3,014.9	100

3. 教員の資格

教員の資格は1級より7級までに分れている。校長は教員のうち最上級の位のものであることになっている。

- 1級 師範学校の7年卒業
- 2 師範学校の4年修業+教員年数2~3年+試験合格
- 3 師範学校・4~6年修業
- 4 小学校6年卒業+教師年数3年+試験合格
- 5 " " " " 2年+ "
- 6 " " " " 1年+ "

## 7級 小学校卒業者

師範学校は小学校6年卒業で入学する。また、小学校の学級担当は、概ね次の資格者がこれにあたる。

小学校 1年 - 3年	……	6級 ~ 7級
1年 ~ 5年	……	4級 ~ 5級
1年 ~ 6年	……	1級 ~ 3級

### 4. 学校(級)申請及び許可

(1) 小学校(学級)の設置許可は、一般に市部6年制、郡部4年制となっているようである。(チャベス移住地の場合は郡部ではあるが6年制が認められている。)

(2) 申請にあたっては父兄の名前、学級別生徒数、学校の位置、設計図を必要とし、地区視学官の添書とともに年度末までに文部省へ手続することになっている。従って未入植地にあらかじめ学校設置を申請しておくことは出来ない。

学級増設は校長が手続を申請すべきこととなっている。

(3) また、申請したものが必ずしも許可されるわけではなく、移住地の場合許可数は半ばにも満たない。従って未認可のままに教員を採り、授業を行っている。これらの未許可学級担任教員には政府よりの給与支給がないから(附表参照)許可教員の待遇に準じて全額移住者が負担している。

### 5. 教員の給与

政府の認可あった学級の担任教員には政府より給与の支給があるが財政の都合から低額である。この低額のままで、施設、環境に恵ま

れない移住地を希望する教員は殆どなく、従て移住地に赴任した教員には PTA (海峽連による国庫補助を含む) により補助がなされ、また宿泊施設、炊事用具まで準備しなければならない現状である。  
(附表参照)

#### 6. 日パ移住協定の関係

##### 第9条

1. この協定に基づく移住により形成された日本人農業移住地は、現行の規則に従ってパラグアイ共和国の教育制度を遵守し、かつ、可能なときからスペイン語で教育を行うことを条件として、私立日本人学校を設けることが出来る。
2. パラグアイ共和国政府は、前記の学校に対し、教員の派遣その他の可能な援助を与えるものとする。



## II 日本人入植地における小学校問題

(海協連パラクアイ支部よりの報告による)

1. 教育問題全般について取り上げる前にここでは当面の大きな問題である小学校問題をとりえてみたい。小学校問題を分析して行く過程で、たとえば1962年5月20日付でパラクアイ移住日本人小学校父兄連合会によって提出された陳情書(四参照)あげられている4つの項目すなわち

- (1) 海協連の移住地教育助成金の増額
- (2) パラクアイ移住地における日本語教育の実施
- (3) 学校教育内容施設の充実
- (4) 移住地日本人小学校の改善

の各項目についてどういう風に考えるべきかも自ら明らかになるであろう。

ここでの小学校問題の分析は主として、芭蕉側との関係においてなされるべきでない問題及び入植者間で解決されるべき問題にしばって行き現地側の行いうる改善の限界を定めることにより上述の各項目に対する上述の各項目に対する参考資料として考えて頂きたいと思う。

2. パラクアイの様々な後進国における小学校教育は基本的に多くの問題を含んでいる。一般的に云えば

- (1) 教育内容の低さならびに教師の質的低下
- (2) 校舎及び教員の宿舎を日本側で設備してやらなければならないこと。
- (3) このようにして設立された学校もしばしばパラクアイ側に予算のないことにより、教師の給与が政府より支給せられない場合が多いこと。

- (5) 入植者側の持つ問題としては入植初期であるため父兄の経済負担力の低いこと。
- (6) 通学距離とLote面積の関係から特に小学校の場合学校数が多くなり易く、経済的に難しくなる傾向を持つこと。
- (7) 生徒が言葉が判らないため教育効果が上りにくいこと。
- (8) 入植初期はすべての子供(中学生相当のかなり大きい子まで)が1年生からやりなおすために生徒数は非常に多くなるが年次が進むにつれて、正常な入学年令の子供だけになってくるため生徒数が着しく少くなること。

3. 以上の問題をフラム、アルト、パラナの両移住地(特にフラムの場合に問題がはっきり出てくる)の例で具体的に掘り下げて見ると

(1) 教師の質について

当地では小学校6年卒業生には7級小学校教師の資格が与えられるがこの最低級の教師がアルトパラナ7名の教師中4名(別に1名は無資格)、サンタローサ5名のうち2名、富士6名のうち4名を含んでいる、即ち移住地内の教師はパラクアイ国の教師の中でも決してよい人を集めているとは云えない状況にある。教師の平均年齢も一部の人を除いては17才から22~23才位の若い人が多い。

(2) 校舎及び宿舍について

現在まですべて海協連補助金で場合によっては父兄の負担によって建設されている。校舎については、他のパラクアイ国小学校(田舎)に比べれば非常に立派で、日本人の感覚でもまず開拓地としてはかまふべきものである。問題はむしろ教師宿舍にある。たとえば、アルト、パラナのうちの小学校の内教師宿舍のあるものは一つだけで他は教員室を宿舍に代用している。前述の教師の質の問題を考える場

合に、この質の向上を計るには給与水準と並んで、宿舍の水準も考えてやらなければならない。アルト、パラナの場合で言えば、ベッド、毛布、ナベの類は組合が支給している状態であり、特に奥地の小学校の場合このような処置が充分なとれなければならない良い光景を得ることは難しい。今後の考え方としては小学校には必ず暖房宿舍及びその備品を含めて考えることが必要であろう。

### (3) 父兄の負担力について

特に説明は要さないと思う。但し、P.T.A負担力について考える場合気をつけねばならぬことがある。

イ、P.T.Aと組合との関係が各組合の管轄地域によって異なること。

すなわち、殆ど組合直営に近いサンタ、ローサから、組合とP.T.Aが全く切り離れたチャブスまで、考え方にも大きな差があり、又組合のタッチのしかたにも差異のあること。

ロ、組合によって教育に対する力の入れ方がちがうこと。

このことは、組合の経済力によってもちがうし、又父兄の経済力によってもちがうが主として考え方の違いよく思われる。ここからP.T.A会費にも大きな差が生じるし、従って教師の待遇にも組合によって大差がある。

ハ、P.T.Aの負担額が上述の組合の考え方、あるいは学校の位置及び公認教師の率等によって左右されること。

### (4) 公認教師について

単級の数立が承認されてもパラグアイ政府から給与が支給されるとはかぎらない。

アルト、パラナの例でいうと

アカカラジャ22K小学校 1/2年各2クラス 3/4年各1クラスの

うち公認されて給与が世政府より出されているのは12年の各ノクラス、残りの各クラスは日本側負担

アカカラジアノク小学校

1,2,3年各ノクラス中12年各ノクラスが給与付 残りノクラスは日本側負担

ピラホ 23K

12年 各各クラス中、12年各ノクラスが給与付、残り各クラスは日本側負担

この未公認クラス数は兼年度注定の進級によって創設されるべき新クラス（アカカラジア 22km 3年ノクラス、5年ノクラス、ノクム 4年ノクラス、ピラホ 3年ノクラス の計各クラス）の事を考えると12クラスにのぼり公認され 数6クラスの倍になり、更に在く公認のないピラホ 3kmの場合を考えると公認の率はきわめて低い。

さらに公認されている場合でもパラクアイ側の給与はきわめて低く何らかの補いをつけなければ先生は得られない。

たとえば各級の教師で午前、午後に担当して（校長手当を含み）3600円 というのが移住地小学校教師中のパラクアイ側給与の最高クラスであること、7級で午前の分だけが公認されている人の場合は11149円にすぎないことを考えてもこの給与で人を教えることのできる教師が 雇えるものかどうか明らかになる。

又公認されている場合でも手算の関係からその先生の資格より低い給与が支給せられている場合も少なくない。

これら公認教師の補足分及び未公認分については父兄負担及び補助

金でまかなうこととなるわけであるが、この場合公認教師には将来恩給等がついたりその他の社会保証があるから、未公認分についてはこれに見合った何らかの配慮も必要である。

(5) 学校数について

アルト、パラナの場合現在のところ約300戸近い入植者に対し27の小学校が設けられており、この数が妥当であるかどうかは別としてかなり整理された状態といえる。一方チャベス、フラム移住地の場合は相当に問題がある。フラム、チャベス地区ノノ校の小学校のうち、通学距離の問題をあまり重視しないで見れば、日本人生徒数ノノ名の大和小学校、同じく9名のラパス中2小学校、28名のウルグアイ小学校(チャベス)同じくノ名に通球カンホの小学校(チャベス地区)は誰の目から見ても今述する今後の生徒数の減少と考へ合せて運営を続けることには困難が多いことが予想され、又、富士、アルフィンチャモロ(いわゆるセントラル)千代田の3校のうちの一校(セントラル)は此地に重複しすぎていることが云える。少し余裕を容れすぎた感があるか、教育内容の充実を計るためにも今後予想される日本語教育や中学校問題を慮めるためにも、日本側の教育助成金を効率的に利用し、かつ少い負担でより多くの内容を望むには学校を統合する以外に方法は無い。この実施が行おれない限り今後のパラグアイにおける教育問題の前進には常に困難がつきまとうであろうから、この際後述するよう考へ方に立って強く統合を押しすすめる必要がある。

特に注意しなくてはならないのは近い将来における生徒数の減少で、フラム、チャベスの場合男女53名55名、45名3名37名、25名25名ノ名2名というよう分布になっており、現在の生徒数ノ年生ノ名、2年生ノ名、3年生ノ名とい

った数に比べて大幅に減少することが予想される矣下ある。この矣についてでは上述の陳情書にも述べられている。

#### 々. 解決策

以下述べる諸策が小学校問題のすべての対策とは考えないし、又現実に各種の特殊事情があるため簡単に解決し難い面も少なくないかとりあえず取り扱ふはならぬ諸策について述べて見る。

(1) 統一的な教育委員会を結成する。

フラム、チャベス、アルト、バラナを通して共通な教育委を結成する。これは現存する父兄連合会を較化させることによって可能、すでに一部動きがある。たゞし日本の教育委とはちがってバラクアイ側の問題（この矣については後述）からはみ出した部分のみを取扱う。早急この教育委が取扱ふなければならぬことは。

イ、学校の統合による効率化、ならびにそのために要する具體的処置の検討、実施

ロ、未承認クラス、新設クラスの承認申請の事務取扱い

（1963年度のための申請は海協連が統一的に取扱う）

ハ、地区あるいはP.T.A.によって差のない均一なP.T.A.会費の決定、及びこれの徴収運営

ニ、海協連補助金の取扱い

ホ、日本人移住地における受当な教師給与の決定（一つの基準による）

ト、バラクアイ国給与の不足分を上述ハ、ニの資金にて支払う。

ヘ、優秀な教師を集め確保するための努力

ト、将来は日本語学校、寄宿会、スクールバスの運営等を考える。

チ、小学校運営費の賦賦（項不同）

等がある。

## (2) パラグアイ側教育管理者の統一化とその把握

現在フラム、チャベス、アルトパラナの各地区は教育行政的にはフラム及びチャベス、アルトパラナの2地区に分れており、それぞれ *Escuela cabeza* (責任校又は本校的なもの) があって、それぞれ *Escuela cabeza* の校長が各小学校の校長をコントロールしている形にある。従来この *Escuela Cabezera* の校長と海協連 P.T.A との間には殆んど関係がなく従って各小学校の教師は教育行政的には視学 — *Escuela Cabezera* の校長という線で、一方給与補助を受けているという意味からは海協連 — P.T.A (組合のことである) という形でそれぞれ無関係の形で2重にコントロールを受けているような感じがあった。

従って各学校(特に先生)の問題は適当に所長のいすひかに持ちこまれる形であらうが、問題はパラグアイ側の教育行政機関を通して解決することかできない形にあった。

この際フラム、アルト、パラナ、チャベスの3地区を1つの *Escuela Cabezera* の下に入れ(この実視学及び E.C の校長は了解している) 又 E.C の校長になにかしかなの手当を当支部の教育助成金より支出することにより、当方、E.C の校長が一本の線で各小学校をコントロールすることにより、教育内容等の充実を計り、又公認申請の手続その他について便宜を得るよう取計らばせと思う。このために要する経費は、ごく僅かであるが統一的教育委の結成と併行すればその成果は大きいものと期待される。

(3) 以上 2つの組織化が完了すれば海協連としてはこれら2つの機関とタイアップして小学校教育の問題を進めて行く。

## 5. 学校統合問題の考え方及び問題点

## (1) 組合との関係

- イ、原則論としては組合から教育問題を切離し、教育委の俵で解決するという方向である。但し、P.T.A会費の徴収（一部地区では既に、P.T.A自身で行っている）、連絡等の関係で教育問題の主体が教育委に移った後においても、組合との関係はしばらくの間は完全に切ることはできないであろうから、教育委のメンバーに委員又はオブザーバーという形で各組合の代表者を入れて組合の意向も入るようしておく。
- ロ、学校の通学区については従来存在した組合事業区とか、組合、非組合員の別とかは一切廃する。場合によっては、こうした通学区に対する従来の考え方の変更により学校の位置を変える必要を生じるかもしれないが、このようなことはできるだけ避けるとしても、場合によっては強行する位の覚悟がないと学校統合はとてもできない。
- ハ、組合からP.T.Aが助成を受けている例がある（たとえばサンタ、ローサの場合）がこれはできるだけ避け学校統合等の合理化によるP.T.A会費の効果的な運用によるか又は補助金をカバーする。女性ならもともと多くの意味で助成を受けている組合から、P.T.Aがさらに助成を受けることはP.T.A（教育委）は教育助成金の他に別な形の（たとえば間接的に組合助成費）助成金を受けているようなものであり、このような形で組合の補助を行うことは組合の問題を複雑化するからである。



## (12) 重点校の指定

昭和30年度においては、少くとも上述の教育委員の検討等をベースにして、重点校の指定を行い、これをベースに学校の統合を行って行く。地元の利害関係によって生れた生徒数の少ない学校は、このような形で強い線を打ち出さない限り消えないであろう。

重点校として何校をぞしてどの学校を指定するかについては教育委員の十分な検討が必要であろうか、一度この決定がされた後には重点校に権力と補助金を集中し、少し位のさし支えは別な方法で解決しながら強く進めて行く。こうして重点校にしほって行くことによりはじめて日本語教育の実施も、教育内容の充実も可能となってくるであろう。その問題解決の過程で中学校設置の前提である寄宿制度やスクール・バス等による通学問題等を解決する一つの道が得られるものと予想する。

指定校とそうでない学校との間にどのような取扱いの差を設けるかは別として十分な教育を受けるには指定校へ集中する以外に方法はないことを事実によって示して行かねばならないしその過程には、少女からぬ抵抗があると思う。

## (13) 通学距離

この問題が一番、統合についてはカンになるであろう。これは上述の重点校指定により高い教育内容を求めて重点校へ集むという空気を作る中で、寄宿制、スクールバス、通学用の馬車等の制度を合せて考えて行かねばならぬまい。解決の可能性はないわけではない。一例をあげると富士、ラパス、サンタローサ、チャペスを通じて、1年、2年で生徒数はそれぞれ100名、100名にすぎないか、クラス数は各10クラスに及び結局、集中的にそれぞれは各3クラス程度ですむもの

が約3倍の先生を必要としている事を見ても分かる。このうち公認クラスは1年7、2年6クラスであとの1年4クラス、2年5クラスはまるまる父兄負担及び補助金でまかっていることを考えると、クラス集中によってういてくる教師に対する給与補助分ははかりで足りないものがあり、このういた分を利用して、上述の各制度を考えること必ずしも不可能でない。

### Ⅲ ドイツ人移住地における教育の状況

他国ドイツ人移住地における教育は、大別して次の2方式に別けられる。

#### 1. メノニータ方式(仮称)

メノニータ植民地はメノナイト宗族団体を中心としてロシア革命後(約50年前)に形成されたもので、ドイツ人、オランダ人、イタリア人、カナダ人が主な入植者である。

メノニータ植民地はメノニア、ノエランド、フェルンハイムの移住地より形成されている。

- (1) 小学校教育 約100
- (2) 児童数 2,100人程度
- (3) 教師数 130名
- (4) 学校運営は、メノナイト教団及び当移住地教育委員会によりなされている。
- (5) 授業内容はすべてドイツ語によりなされている。  
従って当地学校卒業生は他国検定試験に合格しないと、他国上級学校に進学出来ない。
- (6) 教科書はドイツにて印刷送付して来る。
- (7) 教育方針は敏感してアノルツ式で、小学校教育の基礎と人間形成の基礎をつくり、卒業してそれぞれの個性を発揮してゆくとの事。
- (8) 学校が移住地の文化センターであり、社会人になつても学校が図書館、レコードの貸出しの中心となる。

## 2 一般方式 (仮称)

- (1) これは一般的なものでスペイン語を主とし、それにドイツ語教育をまじえている。これは芭蕉政府により公認されたもので教師の派遣もパ國文部省よりなされている。
- (2) これらはインテペンデンシヤ、オエナウ、オブリカード、ペラビスク、カピタンメサ等ドイツ人移住地となされており、児童数は13000名に達する。
- (3) これら小中学校は父兄負担に加えてドイツ政府より年額計100,000マルクス(1マルクは90円)の教師給与補助、赤産官給費補助がなされている。
- (4) 教科書(ドイツ語)地図、理科実験器具、テープレコーダー・図書等はドイツ政府より学校宛無料貸与、教科書は取損分のみを毎年政府が補給。
- (5) ただしこのうちオエナウ移住地サンブラス学校は多少かわった要素を含んでいる。

オエナウ、当校運営の財源は父兄負担、ドイツ政府補助の他にカトリック教團の援助を得ている。当校運営概況は次の通り

### イ. 施設

1957年在芭大使館の要請によりドイツ文化のバラクアイにあける窓口として設立された。総工費3600,000カラニースその75%はドイツ政府並びにオーストリア政府の助成により残25%はドイツ移住者並びにカトリック教團の援助による。

### ロ. 現在学校運営の状況

基本的には父兄負担であるが年間40~50万カラニースの欠

損を生ずるのでこれはカトリック教会の助成によりまかなわれている。

#### ハ. 学費

授業料月額 300カラニース、寄宿費 2,000カラニース。カトリック教国の育成資金より学費免除児童あり（日本人移住地児童 12名が月額 300 ~ 500カラニースの給費生待遇を受けている。）

#### ニ. 現在の児童数

寄宿生 183名、通学生 180名、計 363名

#### ホ. 教師数は

校長 1、普通教師 3、尼僧教師 10、その他助手若干名。

#### ヘ. 教師の俸給

1名月額 3600カラニース（食費、宿泊費学校負担）ドイツ政府より直接派遣される教師に対しては、本人の要求する俸給額を支給 3600カラニースとの差額はドイツ政府で補助しているといわれている。

#### 三. ドイツ語及びスペイン語を併用している学校の時間割例、

6時45分 ~ 7. 20	} スペイン語による授業
7. 25 ~ 8. 00	
8. 10 ~ 8. 45	
9. 00 ~ 9. 35	
9. 45 ~ 10. 20	} ドイツ語による授業
10. 30 ~ 11. 05	
11. 15 ~ 11. 50	

スペイン語授業の折かならずドイツ語でも説明は行なう。

#### Ⅳ. パラグアイ移住地日本人小学校父兄連合会よりの陳情

(1962年5月20日付)

##### (1) 海協連の移住地教育助成金増額要望について

海協連の移住地教育助成金の配分状況については資料(別表)に示す通りであります。吾等移住者が現今直面して居ります障壁は永年性作物、(ソング、セルバー等)の収穫期に至る今後数年間の空白期にあるのであります。

その間大豆、棉、ハズ、マリス等の短期性作物に依りその自給生活を確保しつつ、徐々に永年性作物の植付面積を拡張し来るべき日に俟えんの念願にて嘗々土の行看となつて勤勞これ努めて居る現状であります。

吾等子弟教育の重大性は深くこれは認識するも特に腹はかえられぬたとえにも似て優秀なる教師の招聘、教育施設内容の充実等具体的な教育問題に逢着する度に現在の無力を愧ぢ又悲しむものであります。

吾々は前途に大いなる光明を望み視るものであります。何時までも祖國並に関係機関の陰謀、くれて争を為す如き心算はもつて居りません。只この致互向にわたる空白期乃至は雌伏の時を子弟教育の上に空白として過ごすことは赦されぬ。何んとかしてこの伸びて止まざるものの一瞬一刻を能う限り充実した教育体系の中に育てゆき度き念願に他なりません。すでに海協連の教育助成金をいたゞいて居る現在では御座いますがこの際更にその金額を増していたゞきもつて移住地日本人教育の万全を期し度き存念で御座います。

##### (2) 日本語教育の実施について

移住者日本人一同日本語教育の重要性を深く認識し、之が実現方を遂

く要望するものであります。

優秀なる日本文化の日本文化の継承の問題をどうしたらよいのであろうか。未だ文化の黎明を見ぬ現在のパラグアイ國に日本文化の移入なくしてどこに日本人移住の意味があらうか。日本語こそパラグアイ國に入る日本文化の窓口ではないか。

その他今後吾々の生活面の処理に於ても祖國日本との交流の問題に於ても日本語教育の必要性を痛感するのであります。

これはかつての日本がどうであつたような外国語を排斥したような僻狭なる國粹主義によるものでもないし又獨善主義でもありません。即ち平和にして把握的、流るゝものが交流し相互に地上の樂土を夢みるそれに地ならないのであります。

今後 10里を出でずして吾等の二世以下が日本語を解せば一介のエトランゼとなる日を想像することは吾等のよく之に堪えぬところでありませぬ。

「日本人は教育に対し甚だ無関心である。殊に母國の言葉を忘れ去つてどこに日本人があるのか、亦前途はその子孫をカラニーにしてしまうのか」これは或る移住ドイツ人の言葉であります。移住50年冊國語の指導を1日も欠かさなかつた紋守の言葉であります。

アルゼンチンに於ても又ブラジルに於ても一時うやくにして日本語教育の重要性を身を以つて体験し日本語教育の可憫が地平線上に浮び上つて来たと聞くが移住50里にして気がついたのでは遅すぎるのではないのでしょうか。吾等はよろしく開拓の初期に於て現地に生活する將來の日本人の人間像をはつきりと画き見る必要があるのではあるまいか。

日本語が話せスペイン語も判り英語も読めるところに日本人存在の意義があるのではあるまいか。

吾國教師のすべてとは云はぬが責任の教育の任に当る吾國教師を見るにその修学の過程より考へみるも甚だ頼りなきものであつて多くは1年の教育計画の持ち合せもなく道徳教育は行はれず情操面の指導もない。日毎々々オームのオーム返し納な授業が繰り返されているだけである。かかる状況のまゝ放置せんか、吾等が二世、三世の前途まことに憂うべきものあり、吾等の開拓は土の開拓一辺倒である筈かない。人間形成の重大さを充分に認識すべきではあるまいか。

現行の教育実態に於ては子弟の人間形成の上に大いなる欠陥あり、常識は身に付かず、世界の文化國家である日本人である誇りも持たざるにはパラグマイ、ピオンと同程度の頭腦の持主と成り果てるであらうか吾等開拓者の子弟が斯くの如くでありとするならば開拓者の悲劇之より大なるはなしと断せざるを得ない。吾等はこゝに日本政府並に現地開拓隊團の特別なる位置に依頼し教育への熱情に燃ゆる吾等日本人教師の派遣を乞ふとこれに対する一切の負担とを悉く要望する次第であります。

### 3) 日本人小学校教育の現状充実について

日本人小学校はその施設又は教育材料の貧弱なる点に於ては志川町に見る平小屋にも似ている。産協連の助成と吾等の負担兼任により校舍、机、黒板、黒板か申し歌図にととのつたというだけである。教育材料は皆無に等しい。人工衛星か密林はるかに飛ぶのは眺められるが、ここには近代科学を遠く見るに必要な一芒の実験用具もなければ、木の世間地団こえもないのである。その此子弟の知識の欲に燃ゆる心を充足せしむる何ものも設備を有する事の本末ぬ現状を悲しむるのであります。

先般政府諸君より各学年指導用書、洋書類その他学及備品等の請求を受けたが、これすらも「オインレ」と登えることの本末ぬ現実であるこ



とを御記憶願ひ度いのである。

#### (4) 中学校設置について

小学校経営の困難なる現状にもかかわらず瞬間内には吾等の移任地に於てもすでに中学校設置の段階に到達している。

先般オブリガード、ドイツ人中学校を視察したが同校は1957年ドイツ政府の助成に依り建設せられた6年制中学校である。現在最上級生は5年生であり卒業生は出してはいない。優秀なる寮園管理者を育成すべく非常な努力と周到な配慮が為されていることは羨望に堪えない。

吾々は敢てドイツ人に学ばわけではないが教育こそ吾等子弟の将来に於ける飛躍発展の源泉である事を思う時この中学校設置の悲願はどうしても実現しなければならぬことを痛感致します。

祖国並に現地関係機関の強力なる御支援を仰うや切であります。

#### <オブリガード(ドイツ植民地)コレヒオ・サン・ブラッシー 学校長との対談>

1. 日時 1962年5月18日
1. 場所 コレヒオ・サン・ブラッシー小学校学校長
1. 対談者 コレヒオ・サン・ブラッシー小学校長、富士寮協教育係り

「非常に美しく清酒で近代的な校舎を視せていただき有り難う御座いました。この校舎は何時どのようにして建設されましたか。

1951年在巨ドイツ大使の申請によりドイツ文化のバラグアイに於ける窓口たらしむべく建設されました。総工費は360万カラニスです。その75パーセントはドイツ政府並にオーストリア政府の助成

金により夜余は現地移住ドイツ人の自己資金とカトリック教会の助成金により完成しました。

現在の児童数は？

寄宿生 183名、通学生 180名、合計 363名です。本校は原則として寄宿制度をとり徹底的な訓育を志しているが現地人その他附近在住の他国人も就学を希望するので、最近通学生も相当地増えています。

最近日本人子弟も御厄介になっていますが、どんな様子でしょうか？

非常に真面目によく勉強しています。揃々ひかえ目勝ちで運慮深いので食事の時など特に注意して見守っています。

その点感謝致します。教員の数は？

校長 1、普通教師 3、エルマーナ（尼僧教師）10、その他若干の助手が居りまして寄宿生の世話をしています。

教師の俸給について説明して下さい。

教師 1名の月額俸給額は平均 3,600 ガラニースです。本校教師は食費並に宿泊費の金額を学校にて負担して居りますから他校教師に比べ非常に優遇されている筈です。又ドイツ本国より派遣される教師に対しては、本人の要求する俸給額を交付し、その差額は本国政府の助成金により支拂はれています。

校舎の建設、教師の俸給その他に於て色々本国政府の助成のある事は結構ですね。どのようにして、本国政府の助成を得たのです。陳情なども行なったんでしょうね。

勿論陳情も致しました。一切はアスンシヨンのドイツ大使が知っています。

アスンシヨンドイツ大使にお聞き下さい。阿々。

教育方針は？

スペイン語の学習に重点をおいていますが、教養と祖国文化の継承と父母達の言葉を理解させる為に母国語の学習に毎日/時間の授業時数を計上しています。カトリック教会が学校経営に参加しているが宗教教育については無理のかつらぬよう配慮し、行き過ぎのないよう努めています。算数、理科、歴史、地理等の指導計画は大抵お国のそれとほぼ同じ事でしょう。

情操面の教育については？

美術音楽の情操教育面に留意し夫々専門の教師をおいています。

学校経営の主たる財源は？

基本的に児童より徴収する月謝によって行われているが、それでも年間40万カラニースから50万カラニースの欠損を生ずるので、之はカトリック教会の助成によりまかなはれています。

児童の学費は？

授業料は月額300カラニースであり、寄宿費として月額2,000カラニースを徴収している。別にカトリック教会の育英資金により学費の免除を受けている児童も若干居ります。

日本人小学生の大部分は月額300カラニースから500カラニースで食費その他一切のまかないをつけて下さって居るか恐縮です。

開拓が進んで傾倒になったら大いに出していただきます。

6年制中学校を併設しているかどんな状態ですか？

6年制中学を併設しています。まだ卒業生はなく5年生が最上級生です。他に商業課程の中学を併設し現在20名の生徒が学んでいます。

開拓者として農業課程の中学を作らず商業課程を採択した理由は？

啓蒙の進展と共に農園の管理者として商業簿記その他経営に関する向

問題を解決しなければならぬ必要を痛感したからです。

パラグアイ国の国立とせず、私立の学校として経営される理由は？

学校経営の理想とその自由さに於てこの方が理想的経営にもつてゆき易いからです。

どうも色々有り難う御座いました。学校の御発展を祈ります。

以上

オエナウ、オブリガード、ベラビスタはドイツ植民地の代表的授産地である。すでに開拓50年の歴史を有しパ國に於ける最成功植民地として自他共に許している。

学校は完備し、すでに6年制中学校の設置も完了し、理想的なる教育環境をなしている。祖国ドイツとの交流も緊密になされ、極めて積極的な教育活動が展開されている。日本人移民の子供も彼等の特別な配慮によつてこのドイツ人学校のお世話になつていたのであるが教育国日本の面目にかけても1日も早く吾等の学校が正常の軌道に乗り、自今迄の子供は自分達の手によつて、その教育の事業が遂行される日を念願するものである。



V. 邦人移住地教育現況統計

地区名	学校名	P.T.A数	認可番号	教師認可状況		学年別生徒数( ) 現地人生徒					生徒数		学校別学級状況						累年就学					
				認可	認可	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	日本	外国	1年	2年	3年	4年	5年	6年	認可学級数	計		
																							1年	2年
富士	飛田小学校	42		2	2	8(2)	11(0)	18(0)	11(0)	7(0)	2(0)	5(0)	57(2)	2	59						1	3	2	
	富士	60	1441	2	2	6(2)	16(4)	24(8)	7(3)	7(4)		60(10)	62	102						3	2	4	9	
	大和	23	4105	1	2	1(1)	1(0)	5(7)	4(0)			11(30)	11	41						1	1	2	1	
	大和	125		3	6	1(0)	28(10)	47(17)	27(10)	14(9)	2(0)	124(70)	74	202							4	9	12	
サンゴウツチ	サンゴウ-No1	51	4133	1	3	21(10)	20(0)	7(2)	23(0)	1(0)		97(2)	2	99						2	12	5	10	
	サンゴウ-No2	39		2	2	15(10)	19(0)	14(0)	19(0)			76(1)	7	77							2	5	5	17
	サンゴウ	90		1	5	41(0)	38(0)	35(2)	42(0)	21(0)		162(19)	9	196							14	10	27	3
ラパス	ラパス No1	53	4044	2	2	10(1)	17(0)	20(0)	31(1)	18(0)	5(0)	107(3)	2	109						4	5	6	9	
	ラパス No2	2		1	1	6(3)	3(0)					9(3)	3	12							2	3	4	
	ラパス	65		2	3	22(4)	20(0)	20(0)	31(1)	18(0)	5(0)	116(5)	4	121							7	9	13	
チャバス	チャバス小学校	65	1043	4	4	21(21)	20(0)	13(4)	4(2)	25(0)	16(6)	58(14)	6	106							6	20	18	23
	チャバス	30		(2)	(2)	7(10)	7(12)	8(15)	5(7)			28(44)	2	44								5	1	3
	チャバス	96		(4)	(4)	29(11)	19(5)	21(5)	11(10)	10(0)	14(6)	108(12)	10	122								28	26	21
アルバラナ	アルバラナ No1	69	2229	1	2	52(10)	41(1)	30(1)	13(0)			137(10)	14	151							22	25	25	
	アルバラナ No2	32	2230	1	1	24(1)	31(0)	8(0)				43(3)	3	46							2	11	7	
	アルバラナ No1	49	2234	1	2	76(10)	42(0)					126(1)	0	126							22	14	14	
	アルバラナ	28		1	1	35(10)	28(10)					60(0)	0	60								5	5	
セントラル	125		3	4	138(10)	148(1)	38(1)	13(10)			368(7)	17	403								41	52	53	
セントラル	21	4095	2	2	7(5)	6(2)	14(10)	12(10)	4(4)	1(2)	51(70)	34	79							3	3	2		
セントラル	21		2	2	7(5)	4(2)	15(10)	12(10)	4(4)	1(2)	64(80)	36	79								3	2		
イグアス	4			(2)	(2)	6	2	1	1		16	3	16											
イグアス	5					6	2	1	1		10	0	16											
アマンバハ																								
アマンバハ																								
合計		574		15	14	305	266	179	122	56	962	287	1249							14	106	132		

注) 1. カルグファイ小学校口現地人による小学校であるが日本人通学児童が多いのであげた。

しかし教師計に口加えなかった。

2 教師給与 1 分 = 3 円として計算した。



芭国邦人移住地教師補助分担表

地区名	学校名	各校別教師補助月額				各校別教師補助年額			
		芭国補助	海協連補助	父兄負担	補助総額	芭国補助	海協連補助	父兄負担	補助総額
富士	千代田小学校		3,646.6	6,353.4	10,000		43,759.2	76,240.8	120,000
	富士 "	3,900	1,000	5,100	10,000	46,800	12,000	61,200	120,000
	大和 "	1,500	2,323.3	6,176.7	10,000	18,000	27,879.6	74,120.4	120,000
		5,400	6,969.9	17,630.1	30,000	64,800	83,638.8	211,561.2	360,000
ケンタロウサ	サンダロウサ No1	3,600	4,146.6	6,753.4	14,500	43,200	49,759.2	81,040.8	174,000
	" No2		3,646.6	6,353.4	10,000		43,759.2	76,240.8	120,000
		3,600	2,792.2	13,106.8	12,450	43,200	93,518.4	157,281.6	294,000
ラパス	ラパス No1	5,600	1,000	3,400	10,000	67,200	12,000	40,800	120,000
	" No2		1,823.3	3,676.7	5,500		21,879.6	44,120.4	66,000
		5,600	2,823.3	2,676.7	15,500	67,200	33,879.6	44,920.4	186,000
チャベス	チャベス中央小学校	13,000	2,000	4,400	19,400	156,000	24,000	52,800	232,800
	ウルグアイ "		2,646.6	6,353.4	10,000		43,759.2	76,240.8	120,000
		13,000	5,646.6	10,753.4	29,400	156,000	67,759.2	129,040.8	352,800
アルトパラナ	アルトパラナ No1	2,800	4,146.6	7,553.4	14,500	33,600	49,759.2	90,640.8	174,000
	" No2	3,600	500	1,400	5,500	43,200	8,000	15,800	66,000
	ビラポ No1	3,600	2,323.3	4,076.7	10,000	43,200	27,879.6	48,920.4	120,000
	ビラポ No2		1,823.3	3,676.7	5,500		21,879.6	42,120.4	69,000
		14,000	8,792.2	16,706.8	35,500	120,000	105,518.4	203,481.6	429,000
セントラル	セントラルチャモロ	3,900	1,000	5,100	10,000	46,800	12,000	61,200	120,000
	小学校	3,900	1,000	5,100	10,000	46,800	12,000	61,200	120,000
イグアス	イグアス小学校		( )	( )	( )		( )	( )	( )
			( )	( )	( )		( )	( )	( )
アスンバイン	アスンバイン小学校		3,646.6	6,353.4	10,000		43,759.2	76,240.8	120,000
			3,646.6	6,353.4	10,000		43,759.2	76,240.8	120,000
	合計	41,500	36,672.9	74,727.2	154,900	698,000	440,073.6	923,206.4	1,861,800

(校長手当2,250)

(校長手当1,250)

- 註) (1) 芭国補助分校長手当及父兄負担分校長手当は除外して算出した。  
 (2) チャベス ウルグアイ小学校海協連補助は4月~5月まで(2名分)行い9月以後はイグアスに1名分補助する。  
 (3) 教師給与 / 95' = 3月として計算した。  
 (4) 芭国補助にはこのほか校長1名当り月額 2,500\$ があるが本表では除外。  
 (5) 未認可校長の場合は父兄負担とする。(本表では除外)

## 学 校 施 設 状 況

建設年月日	建築物名	建坪	(当初) 建築場所	備 考
昭和33.3	富士オー小学校	169.6 <sup>0</sup> ㎡	フラム富士地区	
昭和34.3	ナヤマスオー小学校	42 <sup>坪</sup>	ナヤマス	
"	富士オニ人学校	42 <sup>坪</sup>	フラム富士地区	
"	ラバミスオノ小学校	42 <sup>坪</sup>	フラムラバミス地区	
"	サントロツサオノ小学校	42 <sup>坪</sup>	フラムサントロツ地区	
"	ピラボ収容所兼小学校	50 <sup>坪</sup>	アルトバラピラボ 2.2KM	
"	ピラボ収容所兼小学校	50 <sup>坪</sup>	"	
"	ピラボ収容所兼小学校	50 <sup>坪</sup>	アルトバラピラボ 2.2KM	
昭和35.3	サントロツサオス小学校	30 <sup>坪</sup>	フラムサントロツ	
"	ラバミスオス小学校	30 <sup>坪</sup>	フラムラバミス地区	
"	富士オス小学校	30 <sup>坪</sup>	フラム富士地区	
"	ナヤマスオス小学校	30 <sup>坪</sup>	ナヤマス	
"	アカカラシヤ小学校	40 <sup>坪</sup>	アルトバラサ アカカラシヤ 7KM	
"	アカカラシヤ小学校	40 <sup>坪</sup>	アカカラシヤ 2.2KM	
"	アカカラシヤ小学校	40 <sup>坪</sup>	アカカラシヤ 2.2KM	
"	カレンズ小学校	40 <sup>坪</sup>	カレンズ 1.2KM	
"	カレンズ小学校	40 <sup>坪</sup>	カレンズ 7KM	
"	カレンズ小学校	40 <sup>坪</sup>	カレンズ	
昭和36.3	アカカラシヤ収容所兼小学校	120 <sup>㎡</sup>	アカカラシヤ	
"	ピラボ収容所兼小学校	188 <sup>㎡</sup>	ピラボ 7KM	
"	イグアス収容所兼小学校	188 <sup>㎡</sup>	イグアス A 地区	



建設月日	建築物名	建坪	(当初) 建設場所	備考
昭和36.3	ピラホ収容所兼小学校	188 <sup>m<sup>2</sup></sup>	ピラホ7Ka	
" 37.3	イグアス収容所兼校舎	164 <sup>m<sup>2</sup></sup>	イグアスB地区	

邦入移住地 大 師 給 与 分 担 (月 額)

学 校 名	教 师 名	薪 金	口 口		毒 協 連	組 合 及 父 兄		計	考 級	担 任 級
			校 長 手 当	校 長 手 当		父 兄 手 当	授 課 手 当			
竹ノ入学校					18233	36767	250	5750		
千代田小学校	Serrida de Almeida Favoray da Natividade				18233	36767	250	5750	7	3.45
富士	Francisco Apolaca Andressa Torres	2500	250		500	2700		4500	7	1.2
大和	Luisa Guerra Vicente Cavilla	3900	250		500	5100		10250		
(A1) サゴウサ	Estevão Lacerda Maria Freita Francisca Freita	1500	250		500	3500		5750	5	3.4
(A2) サゴウサ	Ederila Martins Ante Martins	3600	250		500	26767		4500	7	1.2
(A1) サゴウサ	R. J. Fuschera Rigoberto Fuschera	3000	250		500	2000		5750	5	
(A2) サゴウサ	Luizel Morais Francisco Bogat Acide V. Oliveira Teofilo Ramirez	2600	250		500	1400		4500	7	
(A1) サゴウサ	Cláudia Paes Mallan	5600	250		500	3400		10250		
(A2) サゴウサ	Elcira Formosa	3000	250		500	36767		5750	5	
(A1) サゴウサ	Angela Regalado Eulby Almeida Petrona Vergara	5400	250		500	400		6150	3	5.6
(A2) サゴウサ	Concepcion Urdaz -cajua	3500	250		500	3100		4500	4	4.5
(A1) サゴウサ	Graciana de Ene Marta S. (cajua)	1300	250		500	26767		4500	7	3.2
(A2) サゴウサ	Alcibio de Almeida	3000	250		500	46767		15150		
(A1) サゴウサ	Emilia de Bonety E. de Almeida	3000	250		500	2000		5750	5	3.4
(A2) サゴウサ		3900	250		500	1400		4500	7	1.2
合 計		41800	2500		36672.8	77422.2		152900		

